

## スペイン語の辞典

評者 坂東 省次

昨年、今年とスペイン語の辞典の出版が相次いでいる。昨年2006年1月に『クラウン西和辞典』（三省堂）が出版されると、年末に『プエルタ 新スペイン語辞典』（研究社）が出版された。そして今年2007年4月には、『西和中辞典』（小学館）の第二版が編著者を一新して出版されたのである。これで主なスペイン語辞典は揃った感がある。それらを時代順に挙げてみよう。1989年『西和中辞典』小学館 1990年『現代スペイン語辞典』白水社 1992年『新スペイン語辞典』研究社 2006年『クラウン西和辞典』三省社 2006年『プエルタ 新スペイン語辞典』研究社 2007年『西和中辞典〔第二版〕』小学館

日本におけるスペイン語辞典の最初の刊行は1916年にさかのぼる。酒井祥州編『新訳 西和辞典』がそれであるが、児玉悦子（「西和辞典の過去と現在」）によれば、「袖珍版297ページの小型本で約6,500語が収録されているが、むしろ単語集というべきであろう。」

わが国で最初の本格的な西和辞典といえば、村岡玄の『西和辞典』である。昭和2年のことだ。この辞典は、自費出版として世に出た。村岡は次々と増補を加え、最後の新增補は昭和32年、頁数1120、語数は10数万語に及んでいた。1927（昭和2）年から1957（昭和32）年まで、日本人でスペイン語を勉強する人、スペイン語関係の仕事をする人で、村岡のスペイン語辞典のおかげを受けなかった人はいなかっただろう。1958（昭和33）年に高橋正武の『西和辞典』（白水社）が出るまで、わが国唯一の西和辞典であった。

日本で戦前に設立されたスペイン語学科は東京外国語大学、大阪外国語大学そして天理大学だけであった。戦後、1958年の上智大学を皮切りに、南山大学（1960）、清泉女子大学（1961）、神戸市外国語大学（1962）、京都外国語大学（1963）と次々にスペイン語学科が設立され、スペイン語学習者が増加の一途をたどる中で、より完全な辞典の刊行が求められたことは言うまでもない。そんな中で1958年、奇しくも上智大学にスペイン語学科が創設された同じ年に、当時としてはもっとも信頼できる西和辞典として刊行されたのが高橋正武『西和辞典』（白水社）であった。これは1990年前後に開始するスペイン語辞典新時代が到来するまでのおよそ30年の間、わが国唯一の辞典であるかのように多くのスペイン語学習者の間で使われた。村岡玄のスペイン語辞典も高橋正武のスペイン語辞典もともに30年間、日本におけるスペイン語の発展におおきく貢献した。しかも新時代の辞典作りにはいずれも複数の著者が参加しているが、村岡も高橋もともにたった一人で辞典作りに挑戦している。偉業というほかないだろう。

スペイン語辞典の新時代には電子辞典の登場が加わる。今年、約1万語を収録した『スペイン語経済ビジネス用語辞典』が完成し、カシオ計算機の電子辞書に搭載された。当初は本の形での出版を目指したようだが、最後は電子辞書だけの出版となった。

スペイン語は広域語であり、話者人口も増加を続けている。今世紀中には5億に達すると言われる。そんな中でいま望まれているのは、本の形であれ電子辞書の形であれ、じつに豊かな世界のスペイン語を対象にした大辞典の出版である。その日が近いことを祈りたい。

ばんどう しょうじ（教授・スペイン語学）